

飼料用とうもろこし専用除草剤

ワンホープ[®] 乳剤

®は石原産業の登録商標です。

使用時期は …… 雑草の発生を見てから、雑草の2～3葉が散布適期

適用雑草は …… 一年生イネ科、広葉雑草に効果大！

シバムギ、レッドトップに大きな効きめ！

シバムギ



イネ科雑草も

メヒシバ



散布前

散布後10日

散布後3週間

広葉雑草も

アオビユ



散布前

散布後2週間

散布後4週間

エノコログサ



散布前

散布後10日

散布後3週間

シロザ



散布前

散布後3週間

散布後4週間

北海道における使用基準

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当たり使用量		本剤及びニコスルフロンを含む農薬の総使用回数	使用方法
			薬量	希釈水量		
飼料用 とうもろこし	一年生雑草	とうもろこし 3～5葉期	100～	70～	1回	雑草茎葉 散布
	多年生イネ科雑草	但し収穫30日 前まで	150ml	100ℓ		

本内容は平成24年10月31日付の登録内容に基づいています。



石原バイオサイエンス株式会社

特長

ワンホープ®

乳剤

●人畜毒性……普通物

●有効成分……ニコスルフロン4.0%

●飼料用とうもろこしの専用除草剤です。

優れた選択性を持ち、とうもろこしの生育中に圃場全面に散布して雑草を枯らします。

●多くの雑草に効果があります。

一年生イネ科雑草、一年生広葉雑草はもちろん、今まで防除が難しかったシバムギ、レッドトップにも効果があります。

●生育中の雑草を防除できます。

茎葉処理のため、雑草の発生程度を見て適正に散布することが出来ます。

●除草効果の変動が少ない。

土壤処理剤に比べ、土壤条件、処理後の気象条件の影響が少なく安定した効果を発揮するため、除草作業の省力化につながります。

上手な使い方

●とうもろこしに対する安全性

●飼料用とうもろこしの3葉期以降5葉期までにお使いください。(早く使うと、とうもろこしの生育に影響が出る場合があります)

●飼料用とうもろこし(デント系、フリント系)が対象です。スイートコーン、ポップコーンには使用しないでください。

●高温となる日(最高気温30℃以上)、または、乾燥により作物がストレスを受けている状態では使用しないでください。

●散布時期

●雑草の子葉期から2~4葉期が散布の適期です。

●雑草が大きくなりすぎると、除草効果が低下しますので早目の散布を心掛けてください。

●土壤処理効果は期待出来ないの、雑草発生前には散布しないでください。

●散布の目安



注) シロザ、アカザなどの優占圃場では雑草の2~3葉期までの早目に処理して下さい。

●他剤との同時散布について

ゲザプリムとの同時散布は、シロザ等ワンホープでは効きにくい草種に対する効果の補強に有効です。

~混用事例~

ワンホープ(100~150ml)+ゲザプリム(100ml) / 10a

(同時散布する場合、ゲザプリムの注意事項を厳守して下さい)

主な対象雑草と使用薬量 (雑草の2~3葉期に使用した場合)

雑草名	薬量ml/10a	
	100	150
一年生イネ科雑草		
イヌビエ	●	●
エノコログサ	●	●
メヒシバ	◎	●
スズメノカタビラ	●	●
多年生イネ科雑草		
シバムギ	◎	◎
レッドトップ	◎	◎

雑草名	薬量ml/10a	
	100	150
一年生広葉雑草		
アオビユ	●	●
イヌタデ	●	●
ノボロギク	●	●
ナズナ	●	●
スカシタゴボウ	●	●
タネツケバナ	●	●
スベリヒユ	●	●
シロザ・アカザ	○	◎

雑草名	薬量ml/10a	
	100	150
イヌホオズキ	○	●
ツユクサ	○	●
イチビ	△	△
ハコベ	●	●

効果の表示

- …極大 ○…大
- ◎…極大~大 △…中

使用上の注意事項

効果面で

- 散布液調製時には薬剤の容器をよく振ってから使用してください。
- 散布後一週間以内の中耕は除草効果を低下させるので避けてください。
- 散布直後の降雨は効果を低下させるので天候を見極めて散布してください。
- 使用にあたっては使用時期、薬量、使用方法を誤らないよう注意してください。

薬害面で

- 品種によっては、生育抑制等の薬害を生ずる場合がありますので、本年度の「適用品種一覧表」を厳守してください。
- 重複散布は薬害の恐れがあるので、散布ムラにならないよう均一に散布してください。特に、枕地部分は重複散布になりやすいので注意してください。
- 低温、寡照等生育不良条件で散布したり、散布後気象条件の急激な変化がある場合には生育抑制等が生じることがあるので注意してください。
- 散布数日後一時的に退色及び生育抑制を生ずる事がありますが、その後の生育、収量には影響しません。
- 有機りん系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は、薬害を起こす事があるので避けてください。
- 自家採種トウモロコシには使用しないでください。
- 本剤は、少量でも飼料用とうもろこし以外の有用作物にかかると、薬害を生ずる事があるので、散布に当たっては、朝、夕などの風の弱い時に散布するなど有用作物に飛散しないよう特段の注意を払ってください。また、本剤の流出によって有用作物に薬害を生じないよう注意してください。
- 通常の輪作体系では後作物に影響はありませんが、本剤散布後、短期間内に飼料用とうもろこし以外の作物の播種、定植は避けてください。
- 本剤は、少量の成分で飼料用とうもろこし以外の植物に影響を与える場合がありますので、散布に使用した散布器具、タンク、ノズル、ホース内などに薬液が残らないよう十分に洗浄し、その後、他作物へ使用した場合薬害の原因にならないよう注意してください。
※詳しくは、使用後の散布器具洗浄法の次頁をご参照ください。
- 散布器具の洗浄水及び残りの薬液は河川、湖沼などに流さないでください。又空容器は、圃場などに放置せず、3回以上水洗いし、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
特に始めて使用する場合は農業改良普及センターなど指導機関の指導を受けてください。

安全使用の注意事項

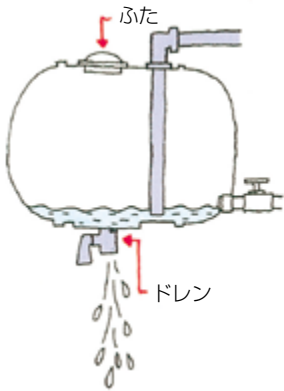
- 本剤は目に対し刺激性があるので目に入らないように注意してください。目に入った場合にはただちに水洗いし眼科医の手当を受けてください。
- 原液は皮膚に対し刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合は直ちに石鹸でよく洗い落としとしてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業着などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石鹸でよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服などは他のものと別けて洗濯してください。
- かぶれ易い体質の人は取扱に十分注意してください。

ワンホープ乳剤使用後の散布器具の洗浄について

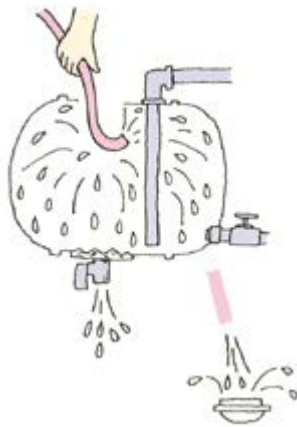
ワンホープ乳剤はとうもろこし以外の有用作物に対し微量の成分で影響を与えることがあります。ワンホープ乳剤の散布に使用した散布器具は、使用后、タンク、ホース、ブーム、ノズル内に薬液が残らないよう十分に洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意してください。

散布器具洗浄手順 (例：800～1,000ℓ タンクの場合)

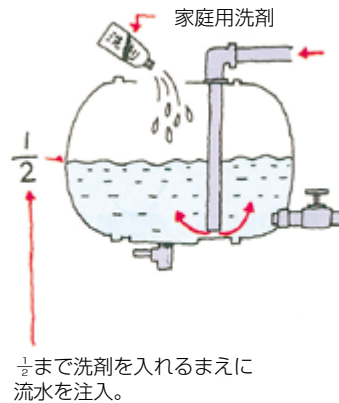
- 1** ノズルおよびタンクの排水口(ドレン)から残った薬液を完全に排出する。



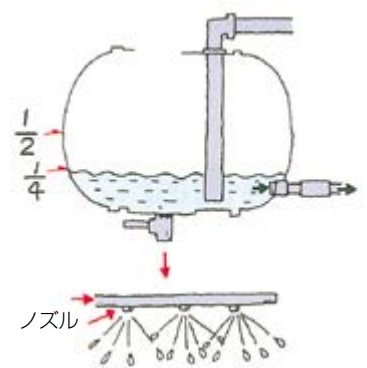
- 2** フタ及びタンクの内側を全面的に流水で約5分間(約100ℓの水)洗浄、排水する。特に内側の上部は薬液が落ちづらいので十分水洗いして下さい。



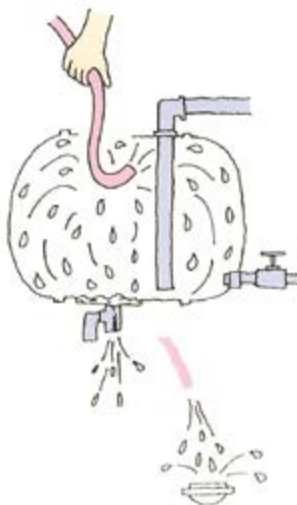
- 3** タンクに半分まで注水し、家庭用中性洗剤150～200mlを加え、洗浄水を攪拌する。



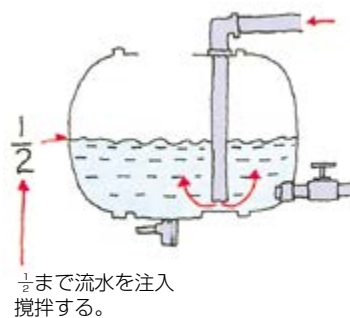
- 4** タンクの1/4量をノズルより動力噴霧後、残りを排水口(ドレン)から完全に排水する。



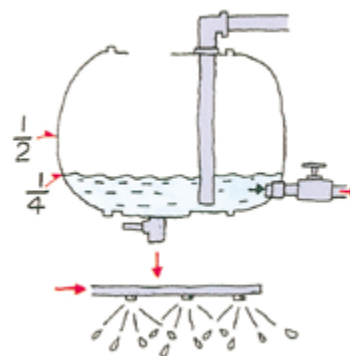
- 5** 再度フタ及びタンク内側を全面的に流水で約5分間(約100ℓの水)洗浄・排出する。



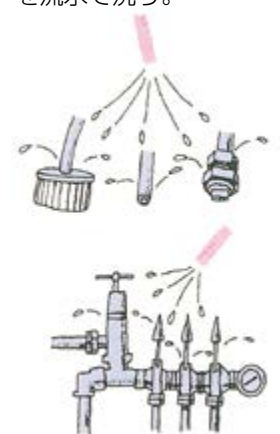
- 6** タンクの半分まで注水する。



- 7** タンクの1/4量をノズルより動力噴霧後、残りを排水口(ドレン)から完全に排水する。



- 8** 排水ホース、吸水ホース、ノズルおよび散布器具の外側(薬液の付着した可能性のあるところ全て)を流水で洗う。



①使用前にラベルをよく読んで下さい。②ラベルの記載以外には使用しないで下さい。③本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

取扱い

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

本社/〒112-0004 東京都文京区後楽一丁目4番14号
(後楽森ビル15F)

TEL. (03)5844-6320

http://www.iskweb.co.jp/ibj